



図書便り (1月号)

平成31年(2019年)1月25日発行

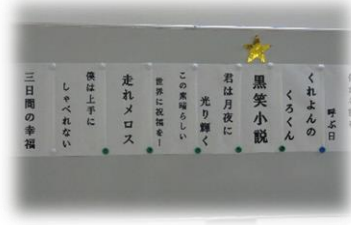
文責 山瀬

～ビブリオバトル～

12月22日(土)に天草市民センターで「本とつながる!人とつながる!ビブリオバトル」が開催されました。天草市の高校生8名が参加し、自分が面白いと思った本を紹介しました。定時制からは、3年生のKさんと1年生のKさんが参加しました。

発表順はくじで決め、3年生のKさんは3番目に東野圭吾の『黒笑小説』を紹介し、1年生のKさんは6番目に太宰治の『走れメロス』を発表しました。二人とも、緊張しつつも本の面白さをしっかりと伝えていました。講評では「物語を読み解いてみたい。」「知識と語り口に魅了された。」などのお褒めの言葉もいただきました。

そして最も読みたい本に選ばれたのが、3年生のKさんが紹介した『黒笑小説』です。他の発表者も素晴らしい発表をし、最後は笑顔で互いの健闘をたたえ合っていることが印象的でした。



3年生のKさんが紹介

『黒笑小説』 東野 圭吾 (著)



東野圭吾が描く短編の「黒い笑い」。Kさんは、特に「シンデレラ白夜行」がおすすめとのこと。舞台は、魔法がない中世ヨーロッパ。そんな中で、いかにしてシンデレラは王子のハートを射止めるのか。おとぎ話のようにきらきらしていないシンデレラは大変なのです。

1年生のKさんが紹介

『走れメロス』 太宰 治 (著)



太宰治の代表作「走れメロス」を始め、さまざまな短編が掲載されている。Kさんは「駄込み訴え」が特におすすめ。「私」の目線で語られる「あの人」への思いは、片思いをしたことがある人ならば誰もが共感するはず。人への思いは美しいだけではないと気づかされる作品。